

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2015年2月 8 日聖日礼拝

---

使徒の働き連講48

「全家族の救い」

使徒の働き16章25節-40節

竿代照夫牧師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### 使徒の働き16章25節-40節

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp240~/第三版の聖書はp261~

25 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ  
賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞  
き入っていた。

26 ところが突然、大地震が起こって、獄舎の  
土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、  
みな鎖が解けてしまった。

27 目をさました看守は、見ると、牢のとびらが  
あいているので、囚人たちが逃げってしまったも  
のと思い、剣を抜いて自殺しようとした。

28 そこでパウロは大声で、「自害してはいけな  
い。私たちはみなここにいる」と叫んだ。

29 看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。

30 そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。

31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。

32 そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。

33 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。

34 それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。

35 夜が明けると、長官たちは警吏たちを送って、「あの人たちを釈放せよ」と言わせた。

36 そこで看守は、この命令をパウロに伝えて、「長官たちが、あなたがたを釈放するようにと、使いをよこしました。どうぞ、ここを出て、ご無事に行ってください」と言った。

37 ところが、パウロは、警吏たちにこう言った。「彼らは、ローマ人である私たちを、取り調べもせず、公衆の前でむち打ち、牢に入れてしまいました。それなのに今になって、ひそかに私たちを送り出そうとするのですか。とんでもない。彼ら自身で出向いて来て、私たちを連れ出すべきです。」

38 警吏たちは、このことばを長官たちに報告した。すると長官たちは、ふたりがローマ人であると聞いて恐れ、

39 自分で出向いて来て、わびを言い、ふたりを外に出して、町から立ち去ってくれるように頼んだ。

40 牢を出たふたりは、ルデヤの家に行った。そして兄弟たちに会い、彼らを励ましてから出て行った。

# 説教

**使徒の働き連講48**

**「全家族の救い」**

**使徒の働き16章25節-40節**

**竿代照夫牧師**





## 主テキスト

「彼(看守)とその家の者全部がバプテスマを受けた。それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。」

(使徒16:33-34)

# 先週の復習:「獄中の讚美」(25節)

## A. 大地震(25-28節)

### 1. 大地震の発生

- 地震地帯
- 牢獄の被害: 扉の開放、鎖の解放

### 2. 看守の驚愕

- 居眠りという大失態
- 自殺の決意

### 3. 逃げなかった囚人たち

## B. 看守とその家族の救い(29－34節)

### 1. 看守の質問

- 謙った看守:「先生方！」
- 看守の質問:「救われるために何を？」

## 2. パウロとシラスの答え

- 単純な道:「主イエスを信ぜよ」
- 家族の救いの約束:「あなたは救われる。そして、家族も」
- 「信じる」ことの意味
  - 1) 自然の営み
  - 2) 対象をイエスに向ける
  - 3) 他のものを頼らない
  - 4) 信じ続けること

3. 看守の介抱と接待

4. 家族の信仰告白

終わりに

「あなたも、あなたの家族も」との  
約束を捉えよう